講座紹介

We are Doctors G and S

琉球大学大学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学講座（第一内科）
原　永　修　作（10期生）

同窓会の皆さまこんにちは。10期生の原永修作です。今回は、私の所属する第一内科の感染症･呼吸器Gの紹介をさせていただきます。当科はその講座名に掲げているように感染症・呼吸器・消化器と３つの領域をカバーしており、昨年５名、今年４名と将来有望な新メンバーを迎えてますますにぎやかな医局になってきています。

呼吸器･感染症Gでは藤田次郎教授、健山正男准教授（１期)、比嘉太講師（２期）のもとcommon diseaseから結核や重症インフルエンザ肺炎、HIV/AIDSのなどの特殊症例まで幅広い疾患の診療にあたっています。４月からは14期の仲松正司先生が感染制御部助教として症例のコンサルトや感染対策に活躍中です。呼吸器領域ではがんセンター帰りの13期古堅誠先生を中心に最新の肺がん診療が充実し、同じく13期の宮城一也先生を中心に気管支鏡を用いた新しい手技による呼吸器疾患の診断、治療を進めております。また当科は感染症で全国的に有名な長崎大学第２内科とは交流が深く、後期研修医の短期研修医を毎年受け入れており、今後は当科からも長崎大学へ医局員を派遣し人的交流を進める予定です。

私も含め県立中部病院や離島への出向経験者が多い当科では病歴や聴診などの身体所見にこだわるGeneralを重視する風潮があります。一方で、専門的な視点で胸部画像所見にこだわり、グラム染色や血培に加えマイクロチップ電気泳動装置を用いた遺伝子検出法で感染症の原因微生物を突き止めることにもこだわっています。グラム染色については講座開設時から感染症診療の基本として受け継がれ、病棟に併設されている日本一眺望の良い（？）検査室で日々行われています。

定例の勉強会や症例検討会は後期研修医から教官まで医局員全員が持ち回りで担当し、症例検討会では病歴や身体所見からproblem listをあげ鑑別診断を絞り込んでいくスタイルでGeneralistとしての能力が培われています。一方、勉強会は各自の研究内容や専門領域のトピックスを紹介する場でありSpecialistとしての知識が披露されています。

第２･４月曜日に開催している当科、呼吸器外科、放射線科、病理部合同のカンファレンスも当科の売りの一つです。症例提示、詳細な画像読影、手術所見や手術適応のコメント、病理所見の解説を交えた熱いディスカッションを通して疑問点が明らかになり、患者さんにフィードバックできる非常に有意義なカンファレンスです。

このように当科の医師はGeneralist的姿勢とSpecialistとしての顔に加え、Globalな視野、Scientistとしての考え方も持ち合わせた“We are doctors G and S”を目指した集団であると考えています。

紙面の都合上、この場では十分紹介しきれませんので当講座のホームページもご覧ください。GoogleでもYahooでも「第一内科」と入力すると最初にヒットしますので検索してみてください。

最後にホームページより藤田教授の言葉を引用して講座紹介を終わりたいと思います。『症例を１例１例、大切にし、検体採取を心がけ、確実に診断のついた症例を積み上げたいと考えている。』

確実に診断のついた「本物の症例」を経験するために第一内科のドアをたたいてみませんか。